

県北広域振興圏地域運営委員会議 会議録

平成 26 年度第 1 回

日時：平成 26 年 6 月 16 日（月） 13：30～15：30

場所：久慈グランドホテル 2 階マリンホール

1 開会

2 あいさつ

【高橋局長】

本日はお忙しい中、御出席をいただきまして誠にありがとうございます。また、任期満了に伴います委員の選任にあたりましては、皆様には就任を御快諾いただきまして誠にありがとうございます。また、日頃から県政推進にあたりまして、御指導、御協力をいただきまして重ねて御礼申し上げます。

東日本大震災津波復興実施計画の第 2 期であります、平成 26 年度から平成 28 年度までの 3 ヶ年を本格復興期間とっておりますが、本年度は初年度に当たりますので、当振興局としても地域住民の皆様に復興の着実な進展を実感していただけますよう、積極的に情報発信を行いながら本格復興に向けた取組を進めていくこととしております。

併せまして本年度は「いわて県民計画第 2 期アクションプラン」の最終年度になりますことから、県北圏域の復興に向けた取組を着実に実行していかなければならないと考えております。

当県北地域におきましては、昨年放映されました「あまちゃん」により、北三陸の全国的認知度が向上したほか、「三陸ジオパーク」、「三陸復興国立公園」、「みちのく潮風トレイル」などの観光資源の誕生や、三陸鉄道の全線での運行再開のほか、「九戸政実」や「御所野遺跡」、「天台寺」などの歴史文化資源等を生かした取組が形を見せはじめると、交流人口の拡大をはじめとした地域活性化へ向けまして、圏域が大きく動き出しております。今後、こうした動きを確実なものとするため、観光をはじめとする地域産業の一層の振興、さらにこれを持続的な発展につなげていくような取組を進めていきたいと考えております。

本日は、県北地域の復興・振興に向けて、委員の皆様のお忌憚のない御意見・御提言を頂戴できればと思っております。それでは皆様よろしくお願いたします。

3 意見交換

平成 26 年度県北広域振興圏の振興施策について

（事務局から次の資料に基づき説明）

- ・資料 1 平成 25 年度第 1 回県北広域振興圏地域運営委員会議（25/11/15 開催）における意見・要望等に対する対応状況
- ・資料 2 東日本大震災津波からの復興に向けた県北広域振興局の取組
- ・資料 3 いわて県民計画の概要
- ・資料 4 平成 26 年度県北広域振興局の重点施策

高橋局長

それでは、只今御説明いたしました内容についてのご質問を含め、皆様の日頃ご活動されての考えやお感じになられたことなどについて、ご意見等をいただければと思います。

恐縮ですが名簿順ということで、安藤委員からお願いします。

安藤ノリ子委員

去年お願いしました、浜の方はおかげさまで復旧しました。ありがとうございます。

高橋局長

ありがとうございます。今年の浜の状況はいかがですか。

安藤ノリ子委員

今月の 26 日から個人のウニ取りが始まる予定ですが、値段と身入りに期待しています。3 月頃からレストラン列車「東北エモーション」に漁協の組合員とか地区会で大漁旗を掲げて列車のお客さんを歓迎しております。それも土日に交替で毎週のようなかたちでやっております。5 月の 3 日 4 日に即売会、6 月の第 1、2 の日曜日に朝市をしましたが、ウニ、アワビ、ホヤ等が思うように材料を確保できなくて、お客様に大変ご迷惑をかけてしまいました。5 月 11 日には海づくり少年団と漁協の組合員で植樹祭を行いまして、みんなで育てたウニ、アワビでいちご煮を女性部の方に作ってもらって、いただきました。

高橋局長

「東北エモーション」で大漁旗を振られているということで、何人かでこの日はこうしようとか計画を決めてやられているものでしょうか。

安藤ノリ子委員

毎週、土曜日と日曜日に地区会長が先頭となって、今日は何班とか班を決めて出たり、あと浜作業があって組合員が出られない場合は、地区の方々をお願いしたり、あと婦人会のほうをお願いしたりして、なるべく休まないようにしておりますが、ちょっと厳しくなってきた状態です。

高橋局長

もちろんみなさんはボランティアというか手弁当というか。マスコミなどにご紹介されていて、大変いいと思っております。さきほど朝市でなかなか材料が集まらないということですが、今年は例年に比べ量が少ないということですか。

安藤ノリ子委員

いいえ、量はあるんですが、お客さんが年々増えてきていて、朝 9 時の開店ですが、6 時に準備に行くと、お客さんがいっぱい並んで待っていてくれるんです。それでも、10 時半頃には完売です。チラシには 3 時までとうたっていますが、全然間に合わない状態です。

高橋局長

嬉しい悲鳴ですね。

安藤ノリ子委員

はい、ありがとうございます。遠方の方は、関東、関西のほうからも来てくれます。

高橋局長

海づくり少年団の植樹祭、私も参加させていただきましたが、おいしいいちご煮をいただきました。子どもたちの将来を考えて色々な活動をしてくださるのはいいことだと思いました。ありがとうございました。

五日市亮一委員

去年、岩手県の新しい品種の「きらほ」という低アミロース米が、今年から一般に販売になったのですが、まだ種が足りないということで、一般農家の皆さんにはまだ種子が行ってなくて、来年度からになるんですが。昨年度に久慈漁協さんと二戸の金田一のお米「きらほ」を使って頂きまして、鯖寿司ができました。去年は米が足りなくてまだ試作だったものですから、今年度は農協の水稲部会に情報を出して来年度から増やしたい。これから久慈市漁協さんとも相談をして進めて行きたいと思っています。岩手県北沿岸に向く品種ということもあります。これから農協もですが水稲が増やすというのではなく減らすという方向が出ていますので、米農家とすればこれから先の米は不安材料がいっぱいです。岩手県のオリジナルで、県北は米どころではないですが、地域の特長のある米ということで、今日、久慈浩介さんもいらっしゃっていますが、営農組合では酒造好適米を県北の地域で、企業さんとの繋がりのある米ということで、出荷して伸びてきています。ただ農協が合併して新しいわて農協になって、大きい組織にはなりましたが、全農さんを通すことによって、せっかく南部美人さんのほうで米が必要だといっていたのに、生産者とすれば、農協を通して出荷すると新しいわて農協管内の中の酒米の需要量ということで、地域特定の流通がしづらいということが今年度反省としてあったものですから、部会のほうとしても自分達生産者も久慈さん

との繋がりを生産者としてもお願いをしながら、農協なり行政のみなさんにも、地域の生産したものがせっかく使っていただいているところへ行く仕組みをきちっと作っていただけるようお願いします。特に農協には部会として取り組みをして動いているのですが、ちょっと色んな壁があります。それと、特に米の政策が、農協も含めてですが、5年後に色んな補助金をなくし生産調整をなくするという、この方向をはっきり知ったんですが、じゃあ、来年から再来年までの間にどういう風になるのか、自分達生産者がどういう仕組みをしていけばいいのかちょっと手探り、手探りというよりは農協自体の情報も欲しいんですけど、色んな農協総会とかに行っても不安材料ばかりで仕組みが出てこないの、ちょっとそういう情報が欲しいなと思っています。マスタープラン、どこの地域もそうですが、高齢化してきているものですから、農地集積だけは進んでいます、それを生産する生産組織がなかなかできないということです。営農組合、生産法人になってはいますが、本当は地域にもう1つでも2つでも出来てこななければならないんですが、補助金の活用と農地集積が思ったより中山間の地域では進みにくいという現実があって、色んな壁はあるんですが、先の方向は色んな新聞報道等はあるんですが、生産者とすれば不安のほうが募ってくる感じがしています。でも県北の「きらほ」もそうですし、酒米もそうですが、生産者とすれば地域の企業さんとの繋がりがあるといことがとても大きいことだと思いますので、そういう面も行政の皆さんにお願いをしながら、自分達生産者もPRしながら頑張っていきたいと思っています。

高橋局長

ありがとうございます。先ほどお話のあった「きらほ」と久慈漁協の鯖、県北は内陸部と沿岸部が一緒になっているということで、県内でもなかなかない地域特性があって、内陸部の「きらほ」は低アミロース米で冷めてもおいしいというのと、鯖とミックスして鯖寿司というのを作りまして、私も食べました。コラボレーション大変いい事例だなあと思っていまして、今後もそういったものを作っていければと思っております。酒造好適米については後ほど久慈委員さんからあると思いますが、その他について何かありますか。

高橋農政部長

金田一の生産組合さんについては先ほど出ました酒造好適米、デビュー当時からあの地域でいち早く取り入れて栽培していただいたり、今、米そのものもいろいろ課題がありまして、単純に主食米を作ればいいだけの時代ではなくなっているなどというのはその通りでございます。それぞれいろんな課題があると思いますが、実需に応じながら、マスタープランのいい事例として取り組みを紹介し、また地域の特徴を出せるように考えていきたいと思っておりますので、今後とも色々ご意見をお願いしたいなと思っております。

大崎由美子委員

今年度から参加させていただきまして、今日初めて伺いました。よろしく申し上げます。ざっくり資料全体を見た感想としては、自分のアンテナの張り方が悪いのか、初めて見る政策とか言葉とか多数ありまして、改めてこういう政策をされているんだなと知りましたが、もう少しアピールしてもいいんじゃないかなと感じました。うちでは林業をしておりますので、林業の観点でお話をすると、林業についても色々やっていただいているんですが、そもそも林業に新しく従事する人はすごく減っております。違っているかもしれませんが、多分盛岡の森林組合さんではやってらっしゃる気がしたんですが、林業というのは危険が伴う作業なので、なかなか若い方はやりたくない。そのやりたくないという気持ちもわかりますし、ちょっと会社員のようなそういう、今わりと一匹狼で山に入って木を切つてという仕事の仕方の方が林業は多いんですが、それを若い方を育てて、お給料制みたいな形にして、怪我をした場合は福利厚生というかそういったものもあってということを進めていただいたら、もう少しやる方が増えるのかなという風に思っています。林業についてはそれが一番強く感じています。

木村林務部長

今、林業でも緑の雇用という話で色々やっております。二戸の森林組合でもそういう形で入っているんですが、なかなかその後一年間の雇用をうたうと、就職してという人は多くはない。ただ最

近ですね、林業でも必ずしも現場作業だけではなく、経営計画を作るようなソフト的な仕事も多くなってきていまして、そういった部分で、パソコンの操作ができるとそういった職種も増えてきていまして、いわゆる暗い、汚い、苦しいだけじゃない部分も出来てきています。一方では、機械化が進んでいるんですが、機械化されると若い人が入って来やすくなっている。そういったかたちでそれぞれの組合で改善されてきているところもあるかと思えます。二戸管内ですと浄安森林組合でも、けっこう機械化とか若い人が入ってきていますので、そういったことが少しずつ伝わっていくと県内全体が増えてくるのかなと思っておりました。林業も昔のような植えて育てるより、切って使うという時代になってきていますので、従来の人力だけではなく機械化も進んでいますので、これからそういった部分で若い人の参入が増えてくればいいのかと色々取り組んでいるところがございます。またなにか気付いたところがありましたら色々お聞かせいただければと思います。

小笠原巨樹委員

林業の話が出ましたので、林業は、最近めまぐるしく状況が変わっていて、なかなかドラマチックな状態だなと思っています。今バイオマスのお話が出ていますが、一戸町でも10万立方の木を集め、今年10月からバイオマスが始まる。野田でも10万立方レベルで集めてバイオマスを始める予定があります。八戸の三菱製紙でも350億円増資して、従来の紙の生産も増やすしバイオマス施設も建てるということで、大変木材に対する引き合いが強くなってきて、ちょっと珍しい時期に入ってきているんです。今度それが始まったときに自分は大規模森林所有者として、経営計画を立てて、計画的に木材を出しながら適正な管理をするということで、そういうプランを立ててやっているわけなんですけども、その需要にちゃんと応えられるのか、その状態と共存していけるのかということで、従来の製紙業者もありますし、地域としてどういうふうに意欲のある業種に伝えていけるのかということで、県の方もだいぶ取りまとめに苦労されていると思いますし、すごいドラマチックなことが先に待っているのではないかと。また、その業種自体が淘汰されていくこともあるわけなので、注意深く観察されていかなければならないし、自分達のものにするにあたっては、どういうふうにそういうところとつきあっていけばいいのかというところで、アドバイスを頂きたいと思っている。そういう情報が大変重要になってくるのではないかと思うので、協力して頂きたいですし、またそういう森林整備に伴って、経営計画を立てているので、補助金を頂く事業なんですけど、今個人的に大変書類を整理しながら、担当者の方に指摘をいただきながら、大変苦労しているわけです。そういうソフト面の話が出ましたけれども、そういうところで、自分はまだパソコンを使ったりするんですけど、例えば自分の父は66歳なんですけど、そういう補助金をもらってやるうというときに、はたして自分と同じことが出来るのかなという大変疑問に思っています。意欲がある経営体でも、なかなかソフト面で書類を作成するというのは難しいのではないかと思うところも多いので、そういうところをサポートしてほしい。林務部さんも人手が少なく大変だなと思っていつも見ているんですが、職員さんも大変だなと思っています。久慈森林組合の理事も自分はやっているんですが、その書類の面で大変苦労することが多いのではないかなと思いますので、目いっぱいやってくださっているとは思いますが、今後とも一緒にやっていただきたいなと思う所です。あと、まめぶ部屋のほうですけども、今年福島郡山のほうで全国B1グランプリがありますので、去年は豊川での全国B1グランプリに振興局長さんにも来ていただいて、手伝っていただいて、ずいぶん自分達励まされましたので、また今年も郡山のほうに是非来ていただきたい。もしよろしければということで、よろしくお願ひしたい。是非、こちらの会場にいらっしゃる方々も郡山にいらしていただければ、すごいマンモスイベントになっていて、けっこう刺激になると思っていますので、是非よろしくお願ひします。

木村林務部長

補助金の指導に関しては、私のほうも承知しており、恐縮しております。1つ言い訳ではありますが、すけどご承知の通り経営計画制度の中で、補助事業が動いているのですが、制度が途中で激減緩和措置ということで動いているんですね。森林整備事業につきましては、林野庁で要領等が毎年動いておりまして、確かに補助事業につきましては非常に煩雑な手続きをしてもらうことになっていま

した。我々職員のほうも、十分理解してはいるつもりですが、なかなかその辺が完璧に行かずに、手戻りになったりして、申し訳ないことになっているというのは承知しておりました。あともう1つですね、森林組合のほうに、ワンクッション置けるように取り組んでいるんですけど、なかなか森林組合さんも事情があって大変なところがあって、いずれこの間もそうですけど、直接私どもの事務所にお出でいただいて聞かれるのが一番確実ですし、手っ取り早いと思いますので、失礼の無いようにきちっと対応させていただきますので、そこはご容赦いただきたいなと思います。あと前段にバイオマス発電のお話ありましたが、私この春に二戸からこっちへ移ってきたんですけど、一戸町のバイオマス発電、それから今、野田村での発電の計画というかたちで、同じ県北局の中で5200キロワットと1万2千キロワットの大きな発電が計画されております。その燃料の量を考えますと、一戸の10万立方、7万トンから8万トン、こちらは10万トン近い、野田はそのくらいになるんですね。そうすると当然管内だけでは供給できなくなるというのも懸念されておりますので、事業体さんのほうにはそういう点できちんとお話して、十分検討してやってくださいよとお話していました。あとひとつ不安なのはバイオマス発電というのは、本来丸太を倒して、丸太として使うところ以外で林内に投げられていた先のほうとか、枝とか、根元のほうとかを使ってやるものなんですけど、それがために木を切るようになってしまうと、資源の荒廃とか森林の破壊とかになってきますので、その辺をきちんと理解したうえで、進めていくように我々も理解し指導していくことに努めていますので、今後の動きにつきましては、十分留意していきたいと思っておりますし、皆さんのほうで温かい目で見えていただきながら、必要なときにはご協力を頂きたいと思っております。

奥寺文夫委員

地域で地域防災、自主防災のほうを進めているんですが、私のところには3. 11の被災者の施設がありまして、ここ3年の間に新居を作って移転される方、また最近においては高齢者の皆さんが大半なものですから、亡くなって1人家族になっている方がいたり、様々なかたちがございます。民生委員の方とか区長さんとか私も地域の自主防災を含めて色々会議を開きまして、支援に当たってどうしたらいいかなと色々検討しております。民生委員の方、区長さんについても書類とか届け物をする度に、何かご相談あったらという風に進めているんですけど、なかなか口が重く、そのかわり気楽に話せる方のことを知りまして、その方に何か悩みがないかと協からうかがっていくようなかたちで、色々アフターケアのようなかたちで今進めています。また私どもの地域には野田村からお出でになっている方もいらっしゃるしまして、その方についても何かご相談あったら民生委員でも区長でもどちらからでもいいのでアクセスしていただければ、私どもにも何かできるのかなということを訴えているんですけど、私は野田村の人間だからということをおっしゃって、そうではなくて今ここに住んでいる間も野田村の気持ちは捨てないで私どものほうにも心を置いて、ご相談くださればとお話はしているんです。そういう形で進めているうちに、湊地区の被災者の方が住居を建設するという話がありまして、大歓迎ですよということで、今、建設が進んでいまして、お盆には入るといいますので、地域の皆さんと交流を図れるという感じで、繋いでいきたいなと色々考えていかなければならないと思います。また、最近の自損行為のことでお話したいんですけど、長内川河川公園がございまして、私の住んでいるところもその一部でして、毎日私も散歩するんですが、たまたま先日自損行為の現場というんですか、おかしいなと思い警察に通報して、捜索したら隣の町内会の高齢者の方が長内川で自損行為をしたと聞いて、普段あまり見えない方なんですけど、やはり高齢者同士の繋がりがありまして、そういえば最近河川公園に来て一人であるようなところを見かけていましたよ。たまたま声をかけたんだということなんですけど、そういう県北地区の特異的な自損行為の件数が多いということについて、老人クラブとか様々な面をうまく運用しまして、色々なことを伝えていかなければならないなという話し合いを先日しました。それぞれの地域でいろんなことを考えているんですけど、もっと大きな考えを持って話し合いをする場を設けたらということになって終わりました。県北広域振興局の担当者、保健の関係ですかねそちらのほうからもお伺いできればと思います。

菊池保健福祉環境部長

先程包括的な説明の中で、久慈モデルという話も出ましたけれども、県北広域の特長といたしましては、非常に関係機関のネットワークが強く、また幅広いネットワークが構築されておりまして、そういった中で様々な方が繋がりがあって、一次予防、二次予防、三次予防ときめ細かな対応を今までも今後もやっていくようにしていますけれども、具体的なお話等、いつでもけっこうですので、保健所の保健師さんが中心となってやっておりますけれども、それ以外でも様々なNPO団体ですとか、傾聴団体ですとか、様々な方々とネットワークを構築して、取り組んでおりますので、要は様々なチャンネルを使って繋がっているというのが大事だと思いますので、地域ぐるみでこれからも取り組んでまいりたいと思います。

高橋局長

自主防災組織ということでご参加いただきましたが、かなり広い範囲の対応をしていただいて、ありがとうございます。そういった観点から、民生委員をしておいでの小野寺さん、今の関係以外でもけっこうですのでご発言いただければと思います。

小野寺ちとせ委員

奥寺さんがさっきおっしゃいましたとおり、野田村から久慈市のみなし仮設にお世話になっておりますので、社協のほうで支援員さんが月に何回か訪問して、私の地域の方も久慈市にお世話になっておりますので、時々聞いてはおります。そういうふうに、やはり野田に帰るのでなかなか地域に溶け込むまでは、せっかくお世話してくださりたいんだろうけど、久慈市さんにはありがとうございます。復興住宅が待てないから久慈市の宇部町のほうに私の担当の方が引っ越されたんですけど、もう待ちきれないということで、早く決まった場所があればいいなという話は聞いております。それから私、去年復興関係のお話で、おかげさまで今年の2月で門前小路の第2団地に入りました。ちょうど寒い時期でしたので、暖房の関係でもう少し配慮があればよかったのかなというのが1点あります。それは何かといいますと、せっかく各部屋にFFのストーブをつける排気口が作ってあるにも関わらず、外からの灯油の管はだめですということです。なぜだめなのか問い合わせたら、賃貸なのでダメと言われました。今は快適に暮らしています。あと、今年は安倍さん（首相）がおいでになりまして、視察に来まして、私はお話をする役になったんですけど、「びっくりしたことは窓が二重になっている」ということで、「ここはこうなんです」と説明したら、「じゃあ、そういう点では寒さ対策ができていてよかったですね」と声をかけていただきました。あと、今、けっこう1人暮らしとか、年配の方もおりますので、スロープは無理だということで、手すりを頼んでおります。できそうだけど希望者だけというふうな感じになっているようです。自分の家でなくてもそこに住むという気持ちでおりますので、対応できる分はお願いしているところです。せっかく公園を作ってもらったから、そこでみんなでお話が出来ればいいなと思っています。あと、一番今年大変だったのは雪が何回も降りまして、ほんとに大変でした。でもやるしかないのです。この間村長さんと会う機会がありまして、そこに雪かきを貸してくれるのかやってくれるのか、そういうお話もありましたので、それを期待しているところです。あと、野田村もかなり復興しておりまして、ダンプの量もかなり少なくなったと思ひまして、今道路関係のダンプはけっこう走っていますが、高台の土のダンプは減ったのかなと。私もしょっちゅう見ているんですが、すごく復興してきたんだと、これから入る城内高台の人はすごく期待していますので、遅れることの無いように皆さんの努力を野田の村民としてよろしく願ひします。

高橋局長

ありがとうございます。公営住宅については、実際暮らしてみないと色々な不具合とか分からないこともありますし、どこまで出来るのかということもありますけれども、色々御意見とか御要望とか出していただければと思います。

菊地土木部長

高台のほうは野田村でやっておりますけど、その高台に通じる道路のほうは我々のほうでやっております。一緒にやっている状況です。おかげさまで土をとる作業は順調にっております、も

うそろそろ土をとる作業は終わって、これから団地内の道路とか下水道とかそういったものの整備に入って、予定では年内には難しいかもしれませんが、来年早い時期には実際に住めるようになっていくのではないかなと思っております。非常に城内のほうは皆さんの期待が大きいというのは聞いていますので、我々も野田村と一緒に一日でも早く住めるように頑張っていきたいと思っております。もう少しお待ちいただけたらと思います。

久慈浩介委員

さっき五日市さんからもお話があった通りで、酒米についてはその通りでした。陸前高田と組みまして、北限のゆずを使ったゆず酒というのをやっていました。これは北限のゆず研究会というのを立ち上げて、復興支援というかたちで作って進めているんですけど、これが非常に好評で、鳥羽市長も一緒になって応援してくれていて、今年二月には出来たばかりのキャピタルホテル 1000でお披露目をやったりとか、農家のみなさんもとてもやる気になって進めているところがございます。できることなら広域圏でなにか色々やるべきだと私は思っていて、あまちゃんのとくにいろんな話があるかなと思ったら全くなくて、仲悪いのをくっつけるとこうなるのかねえという話が、我々の二戸ではあります。だから、仲悪いわけではなくて、久慈、二戸でちょっと違うんだらうというのが、二戸にいる我々の率直な感じでありました。私らと久慈の福来さんとはほとんど交流はないですが、盛岡のあさ開さんとはめちゃくちゃ仲良かったりしますし、そういった意味でも難しいなというのが率直な感想です。それを言うときりがないということで、何とかしたいと思っております。我々のところで、我々の世代がよく知っている中西圭三さん、東京のアーティスト「Choo Choo TRAIN」(チュー チュー トレイン) 作った方で、子ども達へNHKのおかあさんといっしょで「パワーアップたいそう」を作曲したり、そういう方々プラス周りの仲間の方が復興支援に色んなところへ行きたいんだと。当然、出演料などは貰わないですし、色んなことやりたいんだけど全く情報がない。私はたまたま一戸出身の漫画家、宇宙刑事ギャバンを書いている「のなかみのる」さんという方がいるんですけど、その「のなか」さんの関係で話が行ったんですけど、復興支援でやるなら二戸だけでやっても意味ないから、沿岸部に行ってやるべきだろうということと言ったのに、二戸と連携するなら近い野田なんかいいんじゃないかと言ったんですけど、結局何でか田老でやっているんですよ。何でだろうと思うんですけど、ほんと不思議でならないですよ。やっぱりそのへんのミスマッチ。応援したいという人はびっくりするほどいっぱいいるんですよ。それを受けるほうがダメっていうパターンが多々あります。当然それは県がわるいとか野田がいいとか悪いとかそういうことではなくて、それは行政でやるにはちょっと難しいと思うので、野田とか久慈の民間の方々が率先して手を上げたり、それを焚きつけるのが行政の仕事なんじゃないかなと思っております。これも同じで、実は一戸出身の「のなか」さんがやるから、当然二戸だけではなく一戸でもやろうと行政に話をしたら、全く乗り気がなかった。交通費とかは二戸市から補助金が下りて、私のところに二戸の産業支援の補助金がきて、それを使って中西さんたちを呼びましようということになったんですけど、一戸にはお金がかかることもないし、補正予算とか問題ないでしょうと言っているのに、やっぱり無理なんですよ、行政が前に立ってやるというのは。それではいけないと違う形をとったんですけどだめでした。結局は民間同士の交流をもっと盛んにしておくと、連携が生まれる。行政だけで連携していると、こういういい話が全て無になる可能性がある。そうしちゃうともったいない。だから中西さんもそういうわけで全て無駄になったので、次の日に田老。田老もできなかったんで、鹿児島で呼ばれているってということで鹿児島に行っているんですよ。本当はこっちで週末まで予定していたのにうまくいかなくて、鹿児島まで行っちゃっているもったいない現状がある。だからもっともっとうまく広域連携をしていかないといけない。今日二戸から車で来て分かったんですけど、やっぱり道路がこれでは良くないなと。行かないよね、もっといい道路がないと、本当に広域連携するならそういったところもちゃんとしなきゃならないし、沿岸は道路が通っているんな意味で便利になってくるんでしょうけど、横の繋がりを盛岡・宮古だけに頼ってしまうと、その先はどうでもいいんですねとなってしまうと。ただこればかりはお金がかかることなので、どうすることもできないでしょうけど。連携が必要なところを考える

と、そういったことが必要かなと思っていました。振興局がいいとか悪いとかいつているわけではなくて、民間でもっともっとやらなくてはと思っていますし、そこから復興支援の輪が広がると思っていますし、実際の復興支援は民間同士で動いている。何故かうちらは陸前高田とやっている。非常にこれはミスマッチなところなのでもっと近くでやったほうがいいだろうというのがあるので、是非マッチングというか、上手に出会わせてくれたらいいなと思っていました。

高橋局長

お話にあったように、地域の振興というのは行政だけでできることではないですし、そういった地域の方々の盛り上がり結びつきはとても大事だと思っていますので、私どももそういった動きをキャッチして、繋げていくという努力をますますしていかなければと思います。ありがとうございました。

寿松木亨委員

うちは縫製業をやらせていただいております。それで縫製業に関する事なんですけど、県北広域振興局の方にはマッチングの話をしていただいたり、あと去年から2月にファッションショーがあるんですが、それでも大変お世話になってましてありがとうございます。今回こういう機会を作っていただいて、よく話をさせていただくんですが、やはり県北は縫製業が多く、女性の職場が多いんですけど、PRする機会が無くて、1社でどうにかしていることは正直下請け要素の多い縫製業において、そこまでお金を使ってできるかというところとできないです。やっぱり県のほうで色々指導してもらいながら相談させてもらってやっている状況です。岡山のほうはデニムの産地として有名になっていました。今は縫製素材に限らずメイドインジャパンとして、色んな刺繍をやって作られているんです。県北ではなかなかそういうところが出来ないんですけど、競争相手が中国・ベトナム・インドネシアであり、給料が加工賃の大半を占める、いくら技術が良くても10分の1の給料と競争しろと言われてもなかなか厳しいです。私も中国で3年ほど生産していましたが、やはり人ですから慣れます。ただ日本人の良さというのは、細かいところに気がついて、そして注意をして色んなものづくりが出来る、それが一番いいところだと思うんです。中国でも皆さん技術は悪くないです。ただ、言われたことはちゃんと出来ますが、色んなところでここは悪いからこっちも直してという考えまでいくのはなかなか難しい地域であることは確かです。日本としてのよさというのは、色んなところまで気付くということと、うちは今65人くらいいて男は3人くらいですから、女性の職場で女性の力の強さを感じます。女性の能力の高さ、我慢強さは男性に勝ると感じております。なかなか競争相手がアジアなので、利益が出ていないというところもありますけれども、女性の技術はそれだけ高いですから、なんとか女性が働きやすい職場、少しでもというかたちではやっています。なかなかうまく出来ない部分もありますけれども、トイレとか休憩室とか色んな部分でもう少し考えたいなと思っていますが、今の状況ではできない。また皆さんお子さんがいたりしますので、具合が悪くなったら休む。そうすると生産性が下がる。具合が悪くて休みたいたってても、休んでもいいよとは言えない。午後からでも出れないですかとか、病院行って帰ってきてから出れないかとかいう形で話をします。多分心無い言葉だなと思われるでしょうけど、今の状況で会社を維持するためには、こういう言葉が必要になってくるのは確かです。女性の働く職場の補助とか相談とか乗っていただいて、今でも本当にお世話になっているんですけど、わがままを言わせてもらえれば、いろんな部分で相談に乗ってもらって、そしてこれからもっと職場の環境の改善等できるように色々補助していただければ助かります。

高橋局長

県のほうでも、これから若者や女性の力をとというのがありますので、どの程度のことができるのかというのは全県的な課題ではありますけれども、ご意見ということでお伺いしました。ありがとうございました。

大光テイチ委員

私は包括支援センターのほうにおりますので、高齢者、精神、認知症と関わりを持っております。資料いっぱいだったので、何とか読んで参りましたけれども、震災復興関係を見ますと、先程から

出ていますように、自主再建のための不動産等の問題もある程度所有者のはっきりしない土地でも確保ができるようになってきたということで、これから住宅等の再建が出来ればいいなど。やはり年数がかかりすぎたような感じです。やはり住むとこ、働くところが無ければ、結局みんな転居してしまう、これも止むを得ないことなんでしょうけど、ますます過疎化していくんじゃないかなという事は感じておりますが、関係者も一生懸命頑張っているという事は実感しております。その中で心のケアが先程出ておりましたが、気になっていたのがいつだったかの新聞の中で、子供達の震災後の色々なトラウマが、後々年数が経ってから出て来るんだと。引きこもったり色々なところに出てくるのを見て、子供って感じていないわけではなくて、表現の仕方が分からない。ジーと我慢していて、あるときそれがフラッシュバックみたいにパーッと出てきたときに自分の感情をコントロールできないというのが出てくるだろうから。さっき久慈さんがお話したように、色々ボランティアで来たいと言ったときに、言葉だけだと子供は相談には来ないと思いますが、自分で表現する、歌う、劇とか一緒に動きをやる、絵をやりながらカウンセリングしていく、そういったかたちで未永く応援していただければと感じました。それから、広域振興局の施策をみましたけれども、各分野とも大切なポイントが盛り込まれているなという印象は受けました。その中で私が関わっているところで、やはり難しいから入れなかったのかなと思ったのは、資料3の「いわて県民計画」の中の第一章の所で、急速なグローバル化の渦中にある岩手、人口減少・少子高齢化の一層の進行。まさしく人口減が被災のために減少したのと合わせて、仕事がないということでどんどん減少していくということ。何とかしないと厳しいのかな。それから、少子高齢化のところについて特にお願いしたいと思うんですが、なかなか働く場の確保が難しい、第一次産業であっても林業とか農業、船にしたって流されたのを新たに借金して再建するのはお金が必要で大変難しいかなと思うんですが、若者に色んな職場体験をやってほしい。農林漁業の体験、中学校くらいに体験学習があるんですが、もうちょっと幅広いところで見させるような場所があればいいのかなと思いました。もうひとつは若者が住みよい街ということで、北陸のほうでしたか、少子化の中にあって若者が多くて子供達がいいた。テレビで見たらここでやっているのと同じなんですよ。予防接種・検診等、ほとんど無料で出来るし、子どもの相談もあるし、出産の祝い金みたいなのももちろんありますけど、転居してくると町や県で生活のための住宅とお祝い金の交付もある。そういうのを見たとき地元もけっこう住みよいよね。PRが足りないのかなと思ったり、もうひとつ足りないのは医療が弱いかな、特に小児科が減ってきておりますので。福祉面とか保育園では待機児童はありませんし、統廃合して減っているくらいですから、都会の1年待たなければ入れないというのは全く違いますので、そういう意味でもう少しPRしながら、医療のところを強化していただければいいのかな。それから女性は大変だと思いました。子供1人、2人いると、学校行事や病気になったときに預ける人が無いから、みんなに迷惑かけると思って、もうこれ以上は産まれないんです、という人もありました。いざというときに頼めるベテランの保育士さんを経験した方や、子育て何年もやったおばさんたちを少し研修して、多少安い料金でも「子どもを預かりますから、どうぞいつてらっしゃい」と、そういうソフト面のところに補助があって充実できればいいのかなと思いました。高齢化のところでは、年齢と共に認知症が非常に増えてきております。ですがSOSがほとんど来ません。一人暮らし高齢者の場合は、民生委員から来ない限り、「私ちょっと変なんです」と来たためしがありません。高齢者夫婦であっても、二人とも認知症になったり、ひとりが変だというと、人を馬鹿にしてということで、夫婦一緒に暮らせないというんです。そういうことで来ないので、私としては、地域、民生委員を含めたところの見守り、あるいは老人クラブ等に来なくなったなど、地域の見守りを併せたい。徘徊する人は大体決まっています。この間テレビで7年ぶりに見つかったというのもありましたし、うちのほうでも八戸の方、三八地区の人が行方不明だったようだけど、ある地域がみんな出て山に入って、探したがすでに亡くなっていたという話がありましたが、みんなで助け合ってみんなで探そうという意識があります。地域の連携と併せて、個人情報という認知のあるひとについては認められればいいなと思ったり。できるだけ私も訪問したときは、良かったら写真撮らせてくださいと。いなくなるかたであれば、タクシーとか連絡をすると、どんな顔のど

んな人かという時に写真がないと難しいところがありますので、そういうところが共有できればいいなというのが願いです。

高橋局長

広範囲にわたりありがとうございました。少子高齢化、人口減というお話がありましたが、みなさんご承知だと思いますが、ちょっと前に日本創成会議という、増田前知事の主催する研究会みたいなところが、このままで行くと自治体が消滅するというような、ちょっとショッキングな試算を出していました。確かに人口減という大きな問題だと思っていますし、色々お話にあったようにあったことを含めトータルで考えていく必要があると思います。それから医療というお話がありましたが、医療資源はすぐには増やせないということもありますので、限られた中で、先程お話にあったようにネットワークをどう構築していくかということを考えて行きたいと思っています。

貳又あな子委員

野田村の食生活改善推進員をやっております。全国組織です。久慈地域でも久慈・野田・洋野・普代で久慈地区食生活推進員を300人以上で組織しています。県の事業として、震災後ですけど、食事からはじめ健康増進事業ということで、仮設の皆さんを対象として、仮設の人達がどうしても閉じこもって野菜不足に悩んでおりましたが、皆さんに声がけをいたしまして、料理を作って一緒に食べませんかということで、作って食べて、そのあと運動をしたりしています。また栄養教室の先生が二戸から参りまして、話しても楽しい、踊っても楽しい先生方が3年、震災後から支援して頂きました。1年2年と過ごすうちに、皆さんの帰るときの笑顔が来てよかった。これで一日でも元気になって欲しいなという願いでした。この事業を3年間やっていただきまして、3年目の最後のメニューでした。素晴らしいメニューに出会いまして、県のみなさんにも協力して頂きましたが、高橋局長様をはじめ、久慈保健所の皆さんには大変お世話になりました。久慈保健所チームで、ご当地かるしおS-1グランプリ、塩を1グラム減らしましょうということで、大阪の国立循環器病院主催でしたけれども、それに参加することができました。震災後仮設で普段作っていた料理でした。地元の大野の牛乳とか、寒締めほうれんそう、焼き豆腐、身近にある材料でしたが、保健所の岩山栄養士さんに考えていただきました。仮設でみんなで作り、手軽に作れる、材料も手軽に手に入るということで、S-1グランプリの応募点数355点の中の24点に審査で選ばれ、大阪に行って、岩山栄養士さんと私と食改の会長と3人で本番に挑戦しました。普段やっているものなので何の戸惑いもなくスムーズにできあがりまして。作るのも一番にできあがりまして、試食も一番にいただいたという感じでした。おかげでS-1グランプリで100万円、日本一という、素晴らしい賞をいただいてまいりました。その後も県知事さんに試食して頂きまして、久慈地区の飲食店の方々にも試食して頂きました。ここにおられる局長さんにも試食していただきました。保健所の方々にたくさんお世話になりまして、その時Tシャツまでお借りしましたが、まだそれも返していませんが、いつ返せるのかは、次々その衣装で活躍しているもので、そのうちお返ししたいと思っています。この賞を励みに久慈地区全体で適量適塩の食生活を定着させていきたいなと思います。今「かる塩」という、薄味でだしを効かせた料理ということで、会員一同取り組んでいるところです。岩手県は脳卒中男女とも日本一ですので、少しでもランクが落ちていくよう努力したいなと思います。今回のS-1グランプリの減塩料理を広めていければいいなと思っております。このような事業が少しでも県の事業として、今年度もやっていければなと思っていますので、今後ともよろしく願いいたします。

高橋局長

今、S-1グランプリのお話がありましたが、グランプリ自体もすごく素晴らしいことですし、それに至るまでの地道な活動も認められたのだと思っております。これを励みにというお話がありましたが、こういった形で健康、食生活の改善という、実際の動きに繋げていければと考えておりますので、今後ともよろしくお願い致します。

松田昌子委員

私はカシオペア食の技研究会と食生活改善推進員をやっております。カシオペア食の技研究会は

二戸地方の食の匠のグループです。昨年もお話しましたが、軽米高校さんと一戸高校さんで、雑穀料理の研修会を行って参りました。1月に行われた雑穀料理コンクールでは一戸高校さん2名、軽米高校さん1名の方が入賞されました。今年度も引き続き雑穀料理の教室を続けていくつもりでございます。8月の9日、10日プレミアムフードフェスタが「なにゃーと」で行われるようですが、そちらのほうにも参加させていただく予定になっております。次は食生活改善推進員のほうをお話します。私たち食生活改善推進員の二戸支部として、昨年7月3日に野田中学校の仮設住宅と、野田村北区公民館にお邪魔させていただきました。3回目でございます。野田村の皆さんと一緒にペットボトルのキャップを使った簡単ブローチ作りをしました。そのあと、たかきび入りのパンケーキを試食しながらのサロン会をいたしました。あと、各市町村でも二戸、野田村さんをお邪魔させていただいているようです。九戸村さんとか、二戸市さんです。私たちは12月16日に、野田村食生活改善推進員さんを軽米町においでいただいて、新そばのそば打ち交流会を行いました。帰りにお土産を頂きまして、私はそば粉を持って行ってたんですけど、1人分いくらもなかったんですけど、お渡ししましたところ、次の日すぐにそば打ちをしてくださったということで、とてもうれしく思いました。私たちの活動は目立つようなものではないですが、おそばのように細く長く活動し続けたいと思っております。そして、私たち二戸支部では、健康的な生活習慣実践定着支援事業の一つとして、健康いわて21プランの中から、一日一度は季節の野菜をたっぷり使った具たくさん味噌汁を食べる。あとひとつは噛むことの大切さやよく噛んで食べるための調理方法について普及啓発しようという目標を立てました。あと私の町、軽米町では共食事業が盛んに行われていまして、昨年は12の地域で行われました。共食事業とは、60歳以上の希望者を募り、集めて軽体操をしたり、お昼を一緒に食べます。その中で私たちは献立から買い物、調理などを行います。その共食の中で減塩、味噌汁の塩分測定を行い、減塩食も作り食べていただいております。味噌汁の中にたくさん具を入れるようにとか、野菜を食べるようにということを普及させていきたいと思っております。

高橋局長

ありがとうございました。この県北地域、内陸も含めてですけど、食産業というのが非常に重要な産業で、県北の雑穀は大きな特色があるということで、その活用・推進といった面で、力を入れていかなければならないと思っておりますし、それと先程の貳又さんに通じますが、当地域の県民の方々の健康を考えていく上で、食べ物について注意していくことは非常に大事なことだと思っております。今後ともご意見等頂戴しながら努めて行きたいと思っておりますし、これからも引き続き活動して頂きたいと思っております。

茂石純一委員

私のほうからは観光関係になると思いますが、私の地域普代村の体験プログラムのひとつを紹介します。毎年期間限定で、定置網の網起こしの体感ツアーということで、大体7月下旬から年内いっぱいまでの期間に開催しております。朝3時4時に起きて、漁師さんと一緒に船に乗って、実際に漁をしているところを見てもらって、漁港へ帰ってきて、そこから好きな魚を選んでもらい、それを朝食に食べるという内容です。参加した方には好評なんですけど、朝早いということと非常に寒いということで、参加者は多くは無く、受入れ人数も最大10人という少人数で細々とやっているわけなんですけど、課題としてはより多くの人に体験していただければありがたいなと思っておりますので、今年は皆さんに是非いらしていただければと思っております。あと、お願いとかご相談というかあります。普代村に黒崎展望台というところがありますが、ここは景観が抜群にいいと私自身は思っております。今の時期になりますと、草が生い茂り海が全然見えない状況でございます。冬ですとおそらく210度は見える景観なんですけど、これからの観光シーズンに全国の皆さんに是非見ていただきたいと思っておりますので、そのへんの対応をして頂きたいと勝手ながら思っているところでございます。さらには観光客が北三陸に来た際に、国道45号を走りますと海岸線を走る部分が多くありますが、そこも木が多くてあまり海が見えないということが数多くありますので、そのへんも各市町村と振興局さんと連携をとって、海の見える道路にいただければあ

りがたいと思っております。

高橋局長

当該木がどなたの所有とか、色々あるかと思しますので、地元の皆さん市町村の皆さんと相談しながら、現状把握とどういった対応ができるのか検討してみたいと思います。あと、最初のほうに言いました、網起こしとかの漁業体験は、これからお客さんを呼ぶ込む非常に貴重なアイテムとなると思しますので、そのへんのところ進めていければと思います。ありがとうございました。

大光テイ子委員

以前、二戸と久慈に振興局があったのが県北広域振興局になって、違いを感じます。同じ県北でも内陸部は農業で、こちらは漁業であり、産業経済が違いますが、問題は交通の便です。二戸は新幹線のそばですが、洋野は軽米に行くのにもかかります。隣なのに峠を2つ越えないと二戸には行けない。二戸は頑張っていると思います。この間も新聞に載っていました。お互いに切磋琢磨していかなければと思いますが、道路はまだまだです。背骨となる復興道路は高いところに作っていますが、横となるあばら骨がない。これから道路もやっていくとは思いますが、計画的に二戸と繋ぐようなものにしてほしい。猿越峠は、まだまだ途中の道路も狭いとか、カーブが多いと思いますが、向こうから転勤されてきた方はいかがでしょう。

木村林務部長

二戸から参りました。それでも昔よりはだいぶ良くなっていますが、確かにもっと繋げるところはあると思います。久慈から九戸インターまではスーっと行けますが、九戸インターから二戸に行くところは、一回左に曲がって行きますから、あれがちょっと邪魔くさいですね。あそこが真っ直ぐに行けると、あと5分くらいは早くなるのかと思います。

菊地土木部長

従来は三陸の縦の線が非常に弱くて、昔三陸縦貫道と呼ばれていた道路は、今回の震災がなければ、いつできるのか非常に遅い進捗でありました。今回の震災を機に一気に全線に予算がついており、あと5~6年で全線が見えてくるのではないかと思います。そうすると、皆さんがおっしゃるとおり横の線が非常に弱い。今の計画では、106号とか花巻と釜石を結ぶ2本の道路はりっぱな道路ですが、5~6年くらいで形が見えてくると思います。とり残されてしまったのが、久慈と盛岡を結ぶ道路とか久慈と二戸を結ぶ道路です。南の方でも、陸前高田と一関を結ぶ道路が弱いとかいろいろ不満も出ております。今は復旧・復興を進めることで精一杯な現状であり、5~6年経って縦の線の形がはっきりしてくれば、それを繋ぐ横の線をどうするかが大きなテーマとなってくると思います。岩手県は貧しい県なので、国の補助がないと単独で行うことはできない。国の補助を重点的に横の線に投資してもらいたいと思いますが、国も復興関連は国費100%で行っており、国自体もなかなか厳しい状況にあります。復興については、ほぼ我々の要求とおりに予算を付けてもらっていますが、復興に関連のない部分（内陸の道路改良工事等）については、3~4割カットとかなり厳しい査定を受けています。そういう現状であり、久慈~二戸や久慈~盛岡の横の線を強化するのは、もうちょっと復興が終わってからではないと、なかなか国も予算を付ける状況になっていかないと思っております。もうちょっとお待ちいただいて、何とか予算をつけてもらうよう働きかけていきたいと考えています。

高橋局長

広域振興圏ということで久慈と二戸と一体的となっておりますが、先ほど久慈委員さんから連携のお話や今の道路のお話もありました。先ほど説明しましたが振興局の業務方針には3つの柱があり、1つ目は震災の関係、2つ目はアクションプランの関係ですが、3つ目の柱に久慈地域と二戸地域との一体的振興としており、広域振興圏を意識してやっていかなければならないと思っております。先ほど松田委員さんから軽米の方が野田においでになって活動されているとか、アパレル産業については二戸と久慈と一緒に事業をしているとか、食産業においても意識しながら一体的振興に努めていきたいと思っておりますので、委員の皆様方から御協力、御指摘、御意見を頂きながら進めていきたいと思っております。ありがとうございました。

4 その他
(特になし)

5 閉会